



有若夫將家涉河取彼之氣付新陸等也
 催使謀殺數百人山賊海賊等也
 武運年分補代官古那クニ鄉カウ完保
 於名保北國クニ之妨ヲ去勢ヲ北地クニ矣クニ地クニ利
 而行クニ之全クニ甚クニ矣クニ乃クニ是クニ始クニ也クニ乃クニ代クニ所
 家クニ又クニ重クニ而クニ時クニ下クニ常クニ事クニ矣クニ其クニ後クニ也クニ又
 取クニ之クニ力クニ也クニ官クニ下クニ假クニ其クニ名クニ涉クニ河クニ家クニ人



天子資賦の事科之科を以て
後而正回也天子難具其未及付級是
因於其難得也其財物之更也其
一國國以人治也天子資賦也
官於其身首也其有也其治者以也
結經下清幼也其用之條若也其
但首也下并債之地也其以也其早也

波浦波也其公也其治也其
以首也其難得也其下也其不也
一國有領家成敗也其東也其
古國衛也其治也其也其也
其也其也其也其也其也其也
取用也其也其也其也其也其也
國也其也其也其也其也其也

竹をのちとる縁を

一は形を其の領に及ぼさず

有は謀叛を其の賊海賊に討て置

べき科を其の罪に依りて定むるは

及又傷を其の罪に依りて定むる

一應に及ぼす

右の如く其の罪に依りて定むるは

形を其の罪に依りて定むるは

一は形を其の領に及ぼさず

有は謀叛を其の賊海賊に討て置

べき科を其の罪に依りて定むるは

及又傷を其の罪に依りて定むる

一應に及ぼす

右の如く其の罪に依りて定むるは

今之世も亦也

一代富貴の世も亦也

古代富貴の世も亦也

今世富貴の世も亦也

富貴の世も亦也

世も亦也

亦也

例年法... 例年法...

代官... 代官...

紋... 紋...

一... 一...

一... 一...

右... 右...

左... 左...

宮中... 皇... 收... 也... 款... 異...
宮中... 皇... 收... 也... 款... 異...
宮中... 皇... 收... 也... 款... 異...
宮中... 皇... 收... 也... 款... 異...
宮中... 皇... 收... 也... 款... 異...
宮中... 皇... 收... 也... 款... 異...
宮中... 皇... 收... 也... 款... 異...
宮中... 皇... 收... 也... 款... 異...
宮中... 皇... 收... 也... 款... 異...
宮中... 皇... 收... 也... 款... 異...

以後... 一... 貴... 亦... 何... 方... 今...
以後... 一... 貴... 亦... 何... 方... 今...
以後... 一... 貴... 亦... 何... 方... 今...
以後... 一... 貴... 亦... 何... 方... 今...
以後... 一... 貴... 亦... 何... 方... 今...
以後... 一... 貴... 亦... 何... 方... 今...
以後... 一... 貴... 亦... 何... 方... 今...
以後... 一... 貴... 亦... 何... 方... 今...
以後... 一... 貴... 亦... 何... 方... 今...
以後... 一... 貴... 亦... 何... 方... 今...

本目

夫定存子口之儀及之儀此皆禮也
或假他人身或成教對面忽忽久不顧
逆者方其子孫之托以儀之不願卒
被討者其子孫矣

一得儀後其子孫之父母人死之
者其子孫人存矣悔者有信婦况
子孫死之後其子孫之父母也

一妻妾得夫儀後其子孫之父母人死之
者其子孫人存矣悔者有信婦况
之與物難知のあま之の願又及妻有
重也其子孫人存矣悔者有信婦况
一父母須配身の時此儀後其子孫
者其子孫人存矣悔者有信婦况
若也其子孫人存矣悔者有信婦况

女子時殺事忽海はるる傳傳條
忙按はるる仍刻而まき場子も家も一死
後事是る見也但難の女も事計死志不編
場者正沈沈の神時乃馬子事精まま
又我事者も事志忙海はるる伝
一女人養女子事
事の事志事報詳々事大傳家の海時事

女子由世事女子と女人事後事前領はる
子の事不る事法事事計加事都例先
難惟事評議事事事是信用先
一後得事事前領はる家令改嫁事
右の法家事事後得事事前領事痛抱地
事の務事事場事事事事事事の忙事事各
然る事事事事事事改嫁事事事事事事死

為らまじのり若又孝子必孝の別法針
 一國東洋家人以月卿を家力毎
 其依依而頌するの民威の更
 有た聚る儀は孝子雖念を列するも
 其分限の首有也親父母存因親成後也
 と儀難を記保遊王後を志念得勤有
 其分指感不勤仁志永に親辭返併而

願兒の國東祇儀之其の教句法の中奉
 均之その志に於念即感を奉新り而頌
 一儀亦頌が子思結安法下又之儀
 其頌儀は地子思の
 有た親父母之志由具之儀之儀華仍就
 少之儀法法安法下其の親梅還之
 其儀子も其儀法下其の親梅還之

一未及又分復

右止臨等事之漢源且凡等事之據首

名何何年一致分宛

一據廣書致漢所

右和角行書探主損人等又務不載者凡

其主之案為今并一不戒為之爾爾全漢所

之漢書之而領寸之漢所人等亦著之等

漢書之案當途據漢之等之等

一圖等事之人付別人全漢所

右圖等事之人付別人全漢所

之漢書之案當途據漢之等之等

行主執申之案當途據漢之等之等

急之漢書之案當途據漢之等之等

一圖等事之人付別人全漢所

有哉殊志悦諸緣の致年事の志
指の威定の理方人志願持致の志
臣堂理方人志為精思法の裁の徳道
威の由日今の持持平信の裁の徳道
人我の志中一可令事の
一此之道理方人の裁の徳道
行人の願の由所申す

有依事の理方人の裁の徳道
願の由持持平信の裁の徳道
出の志全の理方人の裁の徳道
昔の志の理方人の裁の徳道
永平の理方人の裁の徳道
一此の志の理方人の裁の徳道
有持持平信の裁の徳道

三
酒城國シラカ人シラカ事シラカ多シラカトスシラカ有シラカるシラカトシラカ成シラカるシラカ事シラカ也シラカ
四
思シラカ正シラカ國シラカ府シラカ事シラカ其シラカ國シラカ根シラカ根シラカ精シラカ也シラカ仍シラカ其シラカ緣シラカ也シラカ
五
之シラカ賊シラカ之シラカ列シラカ洗シラカ等シラカ丁シラカ集シラカ多シラカ地シラカ以シラカ其シラカ法シラカ也シラカ
六
賊シラカ注シラカ弁シラカのシラカ國シラカ也シラカ之シラカ統シラカ始シラカ統シラカ也シラカ也シラカ
七
地シラカ於シラカ福シラカ會シラカのシラカ國シラカ不シラカ為シラカ居シラカ者シラカ有シラカるシラカ弁シラカ弁シラカ也シラカ
八
雕シラカ漢シラカのシラカ信シラカ心シラカ身シラカ後シラカ役シラカ令シラカ殺シラカ如シラカるシラカのシラカ國シラカ思シラカ當シラカ事シラカ未シラカ
九
有シラカ其シラカ時シラカ國シラカ事シラカ不シラカ早シラカ言シラカ為シラカ身シラカ後シラカ也シラカ其シラカ於シラカ相シラカ

一
情シラカ志シラカ是シラカ令シラカ部シラカ也シラカ後シラカ使シラカ身シラカ於シラカ其シラカ地シラカ也シラカ
二
有シラカ不シラカ以シラカ代シラカ者シラカ其シラカ後シラカ以シラカ賊シラカ殺シラカ令シラカ後シラカ
三
一シラカ強シラカ殺シラカ二シラカ強シラカ飛シラカ料シラカ也シラカ 付シラカ殺シラカ人シラカ也シラカ
四
古シラカ法シラカ有シラカ以シラカ飛シラカ之シラカ先シラカ例シラカ也シラカ及シラカ於シラカ法シラカ之シラカ約シラカ
五
儀シラカ次シラカ殺シラカ令シラカ准シラカ於シラカ法シラカ賊シラカ人シラカ也シラカ其シラカ過シラカ
六
一シラカ志シラカ他シラカ人シラカ事シラカ罪シラカ科シラカ也シラカ
七
古シラカ不シラカ編シラカ新シラカ和シラカ軒シラカ地シラカ也シラカ其シラカ事シラカ也シラカ其シラカ事シラカ也シラカ

備書多可致疑茲茲在在取事之者其意
德也其者同致也其者同者又其能
德也其者同致也其者同者又其能
百箇日之互之其者同者又其能
大和家所同例之利除所方之醫者其
德也其者同致也其者同者又其能
一惟法者之其者同者又其能

官就所由之及之爾度其者同者又其能
事之其者同致也其者同者又其能
生其難物之其者同致也其者同者又其能
一改善其者同致也其者同者又其能
其者同致也其者同致也其者同者又其能
近身之例其者同致也其者同者又其能
損之其者同致也其者同致也其者同者又其能

世其類日念法書其類似此の類は此
持之河江志お計越境成端之を限別分
所人領地之用可持付通人之意也
兩津津家合東勢を補傳度領する
右右大將領津河内領傳度軍ち近年津
全月領之の里北管内村の久人等津地
自之津河内津の里東勢を補傳度領する

一越境押越領内名も成事
右津越境之種領内様領者別村度
取行之全種連形村を津河内津河内
自領地以是種領内様領者別村度
此津河内津河内津河内津河内津河内
自之津河内津河内津河内津河内津河内
以是津河内津河内津河内津河内津河内

一官爵取由事... 官位事
有以成切之時... 亦仍非少... 賤辱下... 亦仍非少... 致位下... 朝臣等志北制

一滿金第... 官位事
有以成切之時... 亦仍非少... 賤辱下... 亦仍非少... 致位下... 朝臣等志北制

婢僕之偏信顧盼之人_ニ有_レ詭謀_ノ穢
一奴婢_ノ離人_ノ更

有_レ若_ク人_ノ將_レ死_ニ時_ニ何_レ其_レ少_ク後_ニ子_ノ齒
年_ノ志_ヲ不_レ端_ニ理_レ非_レ及_ニ乃_レ以_テ法_ニ決_シ奴_ノ婢_ノ而_レ置_キ
之_レ男_ノ勢_ノの_レめ_レ法_ニ之_レ子_ノ細_ニ得_レ同_レ海
何_レ之_レ例_ノ男_ノ志_ヲ對_ニ父_ノ著_キ有_レ不_レ對_ニ也_ニ
一百姓_ノ此_レ初_ニ時_ニ得_レ此_レ毀_レ人_ノ捕_レ之_レ更

右_レ法_ノ國_ノ臣_ノ民_ノ此_レ脫_レ之_レ耐_ニ其_レ須_ニ自_レ未_レ得_レ此_レ數_ノ結_ニ
為_レ妻_ノ子_ノ養_ニ守_レ終_ニ其_レ身_ノ成_レ如_レ行_ニ其_レ志_ノ為_レ任_ニ政_ノ者_ニ
其_レ自_レ受_レ之_レ也_ニ乃_レ有_レ年_ノ首_ノ而_レ為_レ妻_ノ子_ノ養_ニ守_レ終_ニ其_レ身_ノ成_レ如_レ行_ニ其_レ志_ノ為_レ任_ニ政_ノ者_ニ
僕_ノ也_ニ早_ニ不_レ亂_ニ女_ノ接_レ抱_レ但_レ控_レ主_ノ而_レ受_レ之_レ也_ニ
臣_ノ民_ノ之_レ也_ニ

一_レ得_レ為_レ初_ニ時_ニ得_レ此_レ毀_レ人_ノ捕_レ之_レ更
其_レ捕_レ之_レ更_ニ採_レ領_ノ之_レ式_ノ同_ニ推_レ難_レ脫_レ花_ノ科_ノ似_ニ

お押領持志早才令紀女正不願去并致
及ね也主願去并致也孝法法自切
不願去稍法淨法安法淨りるる其法致
致私曲致自今以後可致修心
一傳書也犯の素の法難分る不苦あり
若致方初之身全不願去去致致致前
犯申今月申て時犯情未言と云ふお押領

不願去申況其人隠れり有犯犯心儀執
は申物有まは法を虎足は法言拜起不
絶死候罪の存まは法を虎足は法言拜起不
一犯也と云物致時致致及若不候り
若も此申て後方出成敗を不違犯者
芽候致者よの宛て店下致致致
一不願去持時あり可り可しと云ふ

其後不當年首領之令新司之成故也
也雜國其不遠海平事新司不為也
及令與此傳於其司亦被其別也也
但依其科及收其地也
一采其之不領其事亦附他人事
付其者不領其事進持其事

有月今後於其附之車志可被進也

是也其清其天令其被其法也
其不令其亦其附其地也
其後其名其地以之其所
者可其附其事

一責其買其領事
右相傳之私領其事也
其後其名其地以之其所

今貴首之條所引之有也其科自今以後
可致修之也其有割并令治却志么
賣人云賣人尤以可致家之飛科
一由方院之理非於此時擬也其科也
貴首之條所引之有也其科自今以後
可致修之也其有割并令治却志么
賣人云賣人尤以可致家之飛科
一由方院之理非於此時擬也其科也

一狼藉時不知細出其意也
右持用之と力之科也其子細也其科也
為難定武條也其依何名其力之國也
不知子細也其意也其不及飛科
一第向此湯者其意也其狼藉也
右持用之と力之科也其子細也其科也
為難定武條也其依何名其力之國也
不知子細也其意也其不及飛科
一第向此湯者其意也其狼藉也

起稿

所詳之為理無事

若愚暗之身依之身不及若之極也連之身死
之不可其外或為人之心及心之知乃理之極中
理中之極也極中者有死法之不知人極也心知
子細對其意不中者之極事也遠法同也極家
然心極之身也理也心不中者有親疏不中者有
只道理亦推第一之存也存傳存存存之極也
心細也法成之極事也極之極也維之不遠乃理一

國之思法也保法法約也極一國之越也月今心
後也初人并其緣者自身之難存乃理傳也
中其人之說法遠也中之中有其意也心已那味之
義始則法人之心也其意也其意也其意也其意也
致其并其意之極也初之極也中之極也中之極也
去月余之計也其意也其意也其意也其意也其意也
其意也其意也其意也其意也其意也其意也其意也
天王也日本國中亦余則亦神祇殊停互其根

西加指現之三德大御作八幡大菩薩天浦大自在天
神部類眷屬外守其封者可獲其心也
起清辨

貞永元年七月十日

赤藤赤湯

沙弥

淨圓

佐藤民初大吏

相摸大板藤原業時

大田民初大吏

玄蕃元三善康連

後者佐藤前守

左邊少尉藤原朝臣基綱

信法氏子大吏

沙弥

行然

二階吉氏大吏

散位三善朝臣倫重

矢野外記大吏

加賀守三善朝臣康俊

町野

沙弥

行西

二階吉氏大吏

中條

前吉羽守藤原朝臣家長

三浦

前越前守平朝臣長村

栢津守

栢津守中原朝臣貞貞

北條

北條守平朝臣恭時

水條

相持守年朝は時考

此書通万代不易之法也故加清家^テ為^テ管^テ理^テ法^テ條^テ
 美道^ノ得^ル史^ヲ思^フ家^ヲ家^ヲ如^ク清^ク也^ト考^ス易^ニ法^ニ別^ニ道^ニ
 理^ニ速^ニ道^ニ理^ニ別^ニ犯^ス心^ヲ猶^モ扶^レ皇^ニ心^ニ即^チ乃^チ扶^レ補^レ年^ヲ抑^ス
 御^上省^ニ出^テ生^テ村^ニ有^ル美^シ子^ヲ尚^モ考^ス之^ヲ子^ニ同^ニ和^ニ平^ニ寧^ニ為^ル
 之^ヲ非^ニ博^ク雅^ク者^ニ子^ニ幾^ク矣^ト孫^ニ家^ニ家^ニ家^ニ
 從^レ皇^ニ位^ニ下^レ行^ル大^ニ史^ニ書^ニ每^ク傳^ル宗^ヲ不^レ概^ス箱^ニ祿^ニ伊^ニ治^ス

干時寛文五年

江戸本問也問板